



特集

Arts & Crafts ~文化教育学部美術・工芸教室の実力~

活躍する佐大OB

音楽との出会い、人との出会い

作曲家・シンガーソングライター

弓削田 健介さん



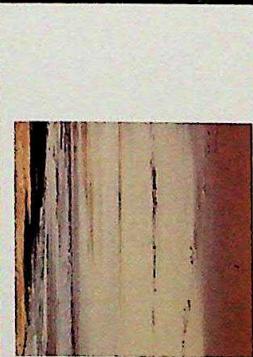
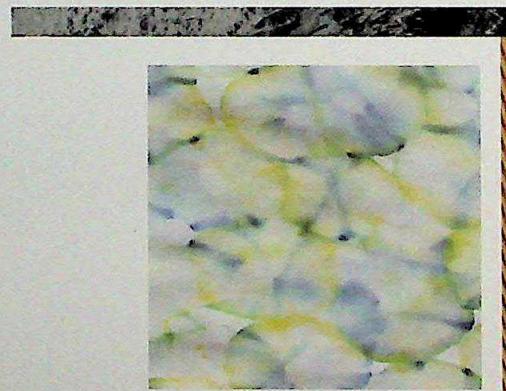
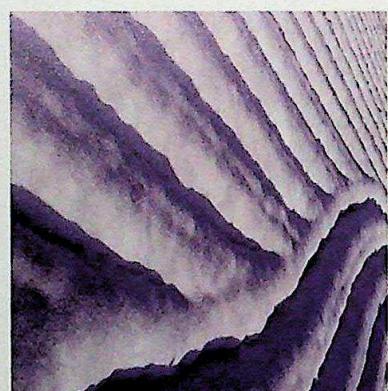
地域貢献

実験住宅「まちの間」

トピックス

『ecocon2010』準グランプリ受賞!

etc



# Arts & Crafts

文化教育学部美術・工芸教室

よく学び、よく制作し、よく楽しむ!  
佐大の美・工は小粒でもぴりりと辛い。





# 文

化教育学部美術・工芸教室の年間最大のイベントである、第55回佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程「卒業制作展」と、第17回佐賀大学大学院教育学研究科教科教育専攻美術教育専修「修了制作展」が、2011年2月22日から27日まで、佐賀県立美術館で開催されました。展覧会の様子は新聞やテレビでも報道され、会期中は美術関係者だけでなく、同じキャンパスで学ぶ佐大生や、多くの一般市民の方が会場を訪れました。

通称「特美」の名で教育学部時代から語られてきた佐賀大学の美術・工芸教室ですが、文化教育学部に改組してから早くも11期目の卒業生を送り出すことになり、新しい歴史も着実に築かれつつあるようです。報道でも取り上げられた大学院生の濃密な修了研究(修了制作・修

了論文)と相まって、充実した卒業・修了制作展となりました。

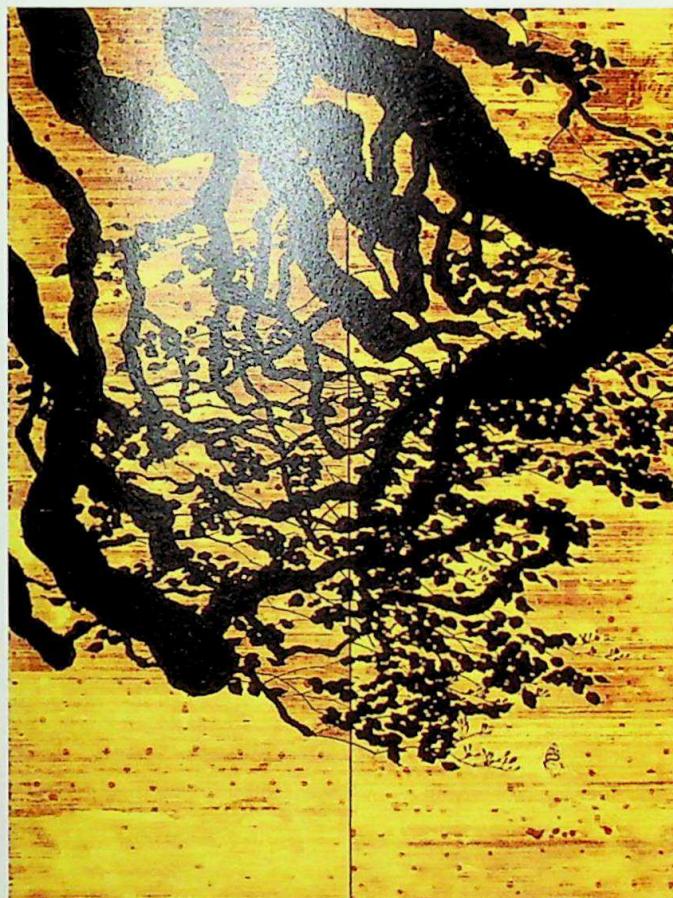
美術・工芸教室の学生たちは、毎日の授業の課題制作はもちろん、自主的なグループ展や個展のための作品制作、公募展への出品、そして地域に根ざした各種イベントへの積極的な参画など、目の回るような忙しい毎日を送っています。先生方から様々なことを学び、学生どうし互いに励ましあいながら切磋琢磨した大学生活の総決算となる作品には、彼ら彼女らのありつけの思いや願い、発揮できる知識や技術の全てが込められています。

今回はそうした諸作品に加え、美術・工芸教室教員による近年の受賞作・話題作の一部も織り交ぜてご紹介します。

“誌上美術展”を、しばしご鑑賞下さい。



# Arts & Crafts



# Awards

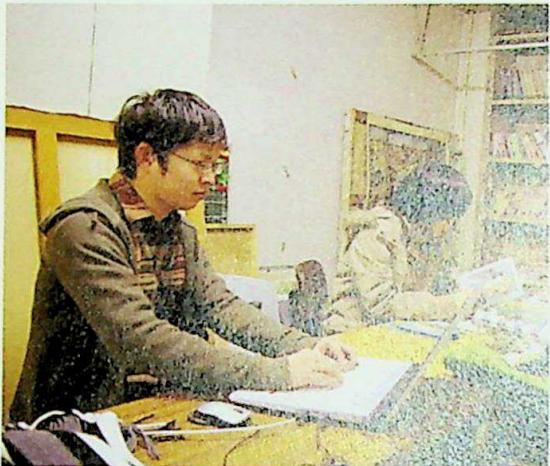
平成21～22年度  
美術・工芸課程学生の  
公募展等受賞の実績

平成21  
年度

篠崎 智恵	第64回「春の院展」入選	(全国公募)
高松 正慎	第92回佐賀県美術協会展 鍋島報效会賞	
鶴 友那	第27回上野の森美術館大賞展 入選 (全国公募)	
本木 ひかり	第86回白日展 一般佳作賞	(〃)
富松 志帆	第39回日影展 入選	(〃)
鳥谷 さやか	第41回日影展 入選	(〃)
白石 恵里	第39回日影展 入選	(〃)
仁戸田典子	第45回昭和会会展 昭和会賞	(〃)
白石 恵里	第45回昭和会会展 優秀賞	(〃)
白石 恵里	佐賀銀行文化財団 新人賞	
鬼塚 彩加	第92回佐賀美術協会展 美術協会賞	
鳥谷 さやか	第92回佐賀美術協会展 美術協会賞	
白石 恵里	第92回佐賀美術協会展 美術協会賞	
川原 恵吏佳	第59回佐賀県美術展彫刻部門 佐賀県教育委員会賞	
古川 由子	第59回佐賀県美術展絵画部門 佐賀県議会議長賞	
浦郷 慧人	第59回佐賀県美術展デザイン部門 佐賀県知事賞	

平成22  
年度

白石 恵里	第40回日影展 日影賞	(全国公募)
西村 幸一郎	第40回日影展 入選	(〃)
前原 慎介	第40回日影展 入選	(〃)
川原 恵吏佳	第40回日影展 入選	(〃)
中村 ひろみ	第40回日影展 入選	(〃)
梶山 一隆	第40回日影展 入選	(〃)
大神 明	第40回日影展 入選	(〃)
高松 正慎	第60回佐賀県美術展彫刻部門 佐賀県知事賞	
小林 香織	第60回佐賀県美術展日本画部門 佐賀県知事賞	
高松 正慎	第93回佐賀美術協会展 美術協会賞	
古田 夏海	第93回佐賀美術協会展 鍋島報效会賞	
中尾 衣智子	第66回福岡県展洋画部門 県知事賞	





人権ふれあいコンサートの様子



演奏中の弓削田さん

今回は、作曲家＆シンガーソングライターの弓削田健介さんにインタビューしました。弓削田さんは、CMソング、校歌やキャンペーンソング、映像音楽も多数手がけ、九州を拠点に、ピアノ弾き語りでの演奏活動・公演活動、児童合唱団とのジョイントコンサートなど、これまでに400公演以上を、全国各地で行われています。

また、2009年、絵本「いのちのまつり／ヌチヌグスージ」のテーマ曲を作曲。この絵本は道徳の教科書の副読本にも掲載され、同絵本の作者、草場一壽氏との「いのちの講演会」は、全国の幼稚園・小中学校・企業研修で好評を得ています。

現在はどのような活動をされていますか

大学で学んだことを教えてください

専門的には、音楽教育と作曲です。

佐世保「ほたて児童合唱団」、雲仙「愛野小学校コーラス部」、長野「箕輪少

# 音楽との出会い 人ととの出会い



作曲家・シンガーソングライター  
弓削田 健介さん  
平成19年3月 教育学研究科  
教科教育専攻音楽教育専修修了

というイベントを立ち上げたのですが、これは現在も佐賀市の「浪漫座」で開催しています。このようなイベント企画やコンサート企画などを通じて「人と人とのつながりが一番の宝物だ」ということを学びました。

## 佐賀大学での思い出を教えてください

毎日朝7時に学校にきて、ピアノの練習をしたこと。一緒に早起きして、教員採用試験の勉強をしていた友達と練習が終わって8時から学食で朝食を食べていたときのすがすがしさ。

吹奏楽、オケ、ハワイアンミュージック、クラシックギターなど音楽サークルそれぞれに仲間がいて、出会った人々みんなで卒業の時に合唱団を結成、みんなで自作曲を合唱する企画をしたことです。

また、生協で東大生が気になる有名人にインタビューをした「二十歳の頃」という本を見つけ、友達とともに佐賀

母校である佐賀大学とは、2007年度テレビCMソングの作曲やネット授業の音楽などで関わりを持ち続けています。

人権ふれあいコンサートの様子

恩師の橋本先生とともに

演奏中の弓削田さん



ティーンズミュージカル



ティーンズミュージカルでの伴奏



ティーンズミュージカル指導の様子



ホスピスでのボランティア活動

の「大人」の人に会いに行って、インター ビューをしたことです。この経験で人と人をつないでいる人は素敵な人なんだなあと思いました。

同じ頃、ホスピスで音楽のボランティア活動を始めました。そこでは子どもたちに歌った童謡などをリクエストされることが多くありました。そしてその翌日に教育実習で子ども達が同じ歌を歌っていたのです。小さい頃の歌が長い間歌い継がれ、ずっと心に残っていることに感動し、子ども向けの歌を作ろうと思いました。

**思い出に残る先生はいますか**

文化教育学部の先生方では、学部生の頃には田中健次先生と三村真弓先生に音楽面での指導を受けました。いつもよく相談に乗ってくださいました。作曲の橋本正昭先生には学生時代から現在も指導を受けています。福岡出身の僕が佐賀に残っているのは、橋本先生がいらっしゃるから、というのが一番大きな理由です。「まだ先生から音楽を遊びたい」と思い続けてくれる出会いが、大学に来た一番の宝物だなあと思います。角和博先生からは、人との「つながり」の大切さを教えていただきました。とても尊敬しています。

**喜びややりがいを教えてください**

音楽の仕事をしていますが、子どもたちのための合唱曲を書くのが専門です。その曲を子どもたちが歌い、練習が終わつたあとも、合唱団を卒業したあとも、口ずさんでくれていると知ったときに、喜びややりがいを感じます。

トされることが多くありました。そしてその翌日に教育実習で子ども達が同じ歌を歌っていたのです。小さい頃の歌が長い間歌い継がれ、ずっと心に残っていることに感動し、子ども向けの歌を作ろうと思いました。

**これから夢や目標を教えてください**

日本人、特に子どもたちの想い出に残る音楽をたくさん作ることです。これからも佐賀を原点として、全国の子どもたちと歌でつながつて行けるような活動を続けていきたいと思っています。

**在学生や大学を目指す若者たちにメッセージをお願いします**

佐賀は素晴らしいところです。確かに都会に比べて刺激は少ないかもしれません、その分、誘惑も少ないです。好きなことに好きなだけ打ち込めます。そして動けば、同じように動いている人、がんばっている人に必ず出会えます。いろんな出会いによってやりたいことが見えてきます。大学ではいっぱい出会いがあるので、ぜひ佐賀大学に来てください。

### 佐賀大学へ要望等はありますか

福岡や東京の大学生は、一流の企業人や芸術家に出会う機会が多いかもしませんが、佐賀は田舎な分、その

機会が少ないとおもいます。もちろん、何かを求めている学生にとっては、場所は関係ないと思いますが、大学の講義に、一流の人を呼んだり、大学主催で講演会を開いたりして、学生にさまざまな出会いを提供していただけたらと思います。

卒業生、町の人も来られるような企画があれば、もっと大学がにぎわうと思いますし、活気もでると思います。



小学校での活動



幼稚園での活動

弓削田さんの活動は、以下のホームページに公開されています。

<http://yugemusic.com/>

## 学生の就業力育成

# 佐賀大学版 「環境教育」の 実践

平成22年度文部科学省「学生の就業力育成支援事業」（略称、就業力GP）に採択された取組「実践トライアングル型キャリア教育」について紹介します。取組のテーマは、環境スキル、環境マインド、ジェネリックスキル（知識や技術の転用能力）という3つのスキルを、高いレベルでバランスよく持ち合わせた人材育成を目指すことです。そのために、理論化・概念化などを行う教育内容に実務・実践的内容を付加し、学習支援および就職を見据えた指導を併行して行う教育プログラムを作成・実践します。それによって大学教育の社会的責任の一つとして重要な「就業力」として結実させるという流れを考えました。

### 「環境スキル」の教育

具体的には、本学が進めてい

る「エコアクション21」と「環境関連資格の取得」を中心に取り組みます。また、作業環境測定、衛生管理業務、薬品管理業務など本学で行われている業務内容を教育に活かします。環境関連資格の取得を目指しますが、資格取得が本プログラムの教育目的ではありません。環境教育の内容といつても様々あります。

この「就業力」を育成するためには、プログラムでは5つのキーワードを掲げました。「環境スキル」、「エコアクション21」、「環境関係資格取得」、「環境マインド」、「ジェネリックスキル」です。

### 「環境マインド」の定義

「環境マインド」を持つということは、環境保全に関する行動を職場や生活いずれの場でも継続的に行なうことが重要であることに気づくことです。学内活動実習科目で、活動の方針

で取り組むことにしました。環境をキーワードに、「就業力」育成に取り組むことにしました。

### 「ジェネリックスキル」の育成

本教育は、1年次からのキャリアデザイン科目やインターンシップ（環境）科目等、学内・学外連携の下で行います。特に行政や企業の人から、環境保全活動の方向性や考え方を学内とは異なる視点を学び、建設的かつ具体的提案を行う機会をつくります。社会で働くためには、学内ではある

程度許される姿勢や態度、社会的マナーなどについても考え直してみる意識が芽ばえることも期待しています。

「環境」という言葉は、地域・生活・異文化・人権・健康ある

ことは、その人の自主性と社会性の向上につながると考えています。

会の「共生のための未来教育」について広く考え、佐賀大学独自のカリキュラムを体系的に構築できればと、「佐賀大学版」

という言葉にこの思いを込めました。将来、「環境に関するような大学になればと思つて」います。



フィジーでの環境活動の様子



環境教育のための教員向け講習会



岡島俊哉  
文化教育学部環境基礎講座教授



# メタボリックシンドロームの 予防と改善に新展開!

佐賀県産食材や未利用資源の活用に光

食生活や生活スタイルの変化が原因となって発症する生活習慣病(癌・高脂血症・動脈硬化・糖尿病・高血圧)は、日本を含め先進工業国における死亡原因の半数以上を占めています。現在のような高齢化社会においては、それらの治療費用が国民医療費の約3割に達し、社会経済的に最も重要な課題となっています。「メタボリックシンドローム」は、内臓脂肪型肥満を中心病態として致死的な動脈硬化性疾患(脳梗塞や心筋梗塞)の危険因子が重積した状態を示し、その予備群も含めると40歳以上の日本人に占める割合は、男性で二人に一人、女性で五人に一人と概算されています。最近、生活習慣病の発症予防に食品成分の生体

調節機能を活用する試みが盛んに行われており、本研究室ではメタボリックシンドロームの予防・改善に活用が期待される様々な食品素材について検討を行っています。

これまでの研究において、有明海で二枚貝に対する食害を起こして駆除・廃棄されていた「ナルトビエイ」、佐賀県林業試験場が簡便な栽培法を確立した「ムキタケ」、佐賀県の特産物である「レンコン」「大豆」などからの抽出物に血中脂質濃度低下作用や脂肪性肝臓障害改善作用が期待される事を報告してきました。その作用機序の1つとして、メタボリックシンドローム改善作用を持つ脂肪組織由来ホルモン様物質「アディポネクチン」の血中濃度上昇作用が関与し

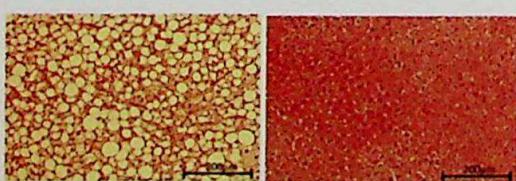
ていることも明らかになりました。教授の柳田晃良先生を始め歴代の研究室大学院生・学部生と一緒に開拓してきたこれらの研究成果は、国内の学会賞・国外の論文賞を受賞し、佐賀大学からも「平成22年度優秀科学技術研究賞」として評価して頂きました。これからも学生さん達と一緒に、メタボリックシンドロームが発症するメカニズムの解明や食環境による代謝制御機構の研究を通して、健康社会の構築や地域経済の発展に役に立つ成果を挙げられるように頑張りたいと思います。



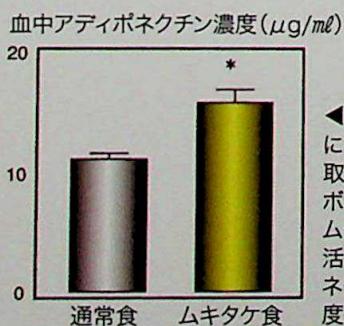
▲食品栄養化学研究室員一同(平成22年2月撮影)



▲ムキタケ(乾燥物)



▲肥満モデル動物の肝臓細胞には、(左)通常食摂取では多量の脂肪が蓄積しているが、(右)ムキタケ食摂取により改善が認められる。



◆肥満モデル動物にムキタケ食を摂取させると、抗メタボリックシンドローム作用を持つ生理活性物質「アディポネクチン」の血中濃度が上昇する。



なが  
お  
こう  
じ  
尾  
見  
治

農学部生命機能科学科准教授

# “消費者問題への提言”に高い評価

「内閣府特命担当大臣賞」を受賞



表彰式の様子



まつ おや あや か  
経済学部経営・法律課程  
法務管理コース3年

**わ**たしは経済法を研究されている岩本諭教授のゼミで、消費者法・消費者教育について学んでいます。この度、ゼミでの活動の一環として応募した社団法人消費者関連専門会議(ACAP)が募集する、消費者問題に関する「わたしの提言」において、内閣府特命大臣賞を受賞しました。

ACAPとは、1980年に設立された、企業や事業者団体の消費関連部門に所属している責任者・担当者が業種を超えて集う組織です。消費者の声を企業内に伝え、企業への消費者からの信頼の構築を図ることを中心とした目的としています。提言の募集は今年で26回で、全国から101作品の応募があったそうです。

わたしは、「守ろうよ、みんなを！～なくそう！高齢者の消費者被害」という消費者庁が設定した平成22年度の消費者月間テーマに提言をしました。高齢者の人口が増加して

いく中で、高齢者の消費者被害は大変深刻な問題となります。そこで、特に高齢者被害の多い訪問販売被害の解決策として、訪問販売の届出制を提言しました。被害を未然に防ぐという目的において、将来的に導入される可能性の高い、訪問販売の全面禁止や一部禁止の前段階として、適切であろうと考えました。

でも、「内閣府特命大臣賞」という最高賞をいただけるなんて夢にも思っていなかったので、とても驚きました。

内容は根拠となるデータや数値を詳しく調べて、論理的に書いたわけではありません。ゼミや講義の中で思ったことや考えたことをそのままに書きました。それが「意欲的で新鮮」という評価をいただき、このような結果に繋がったことを、大変嬉しく思いました。自分の意見や考えが伝わり、認められ、評価されたことの素晴らしさを感じました。

1月12日には、東京で行われたACAPの創立30周年記念式典と表彰式に参加しました。たくさんの方にお祝いの言葉をいただきました。緊張しましたが、とても喜ばしく、いい経験ができたと思います。

今回の受賞は、ゼミ活動を行っていく上で大変自信になりました。1月22日に佐賀市で行われた消費者フェスタにおいて「危険に染まる身近な生活～添加物のアレコレ～」というタイトルで食の安全について発表しました。市民の方に、わたしたちが学んだことを伝えることができたと思います。さらに3月には、東京で行われる全国消費者フォーラムにゼミのみんなで参加します。先輩方から引き継いで作成している消費者教育テキストのことや消費者フェスタのことなど、みんなと行ってきたこれまでの成果と、これから活動について発表する予定です。



岩本先生のゼミの様子

# 空き店舗を 下宿屋へ リフォーム

実験住宅「まちの間」



理工学部都市工学科4年

いづみ 泉 りゆう 龍と 斗 えぐち 江口 かつ 勝成

理工学部都市工学科4年

朝、向かいの商店のおばちゃんに「いつてらっしゃい」と見送られて大学に行く。僕たちは現在佐賀市の呉服元町商店街にある「まちの間」に住んでいます。理工学部都市工学科三島伸雄准教授、田口陽子助教の研究室では建築・まちづくりについての研究を行っています。昨年の9月から「空き家」に住もう実験」が行われ、僕たち3人は被験者（モルモット？実験台？）として実験に参加しました。佐賀市中心にある空き家となっている店舗を借りて自分達で改修し、住居として利用出来るようにしました。実践的な取り組みとしてまちなかに住む課題と可能性を探る試みです。以前大学の周りに借りていたアパートは引き払って、現在は3人仲良く「まちの間」で共同生活を行っています。

工事期間は、蒸し暑い9月から12月の初旬まで3ヶ月を要し、その間多くの人達の協力をいただきました。1階にイベントスペース、2階に3人の部屋があります。新聞やテレビなどのメディアに取り上げてもらったおかげで、まちの人達から

に「いつてらっしゃい」と見送られて大学に行く。

朝、向かいの商店のおばちゃんに「いつてらっしゃい」と見送られた。みんなからは、子ども焼きなどの差し入れをもらったりもします。

実験住宅「まちの間」。半年前までは「空き家」と呼んでいたのも今ではすっかり忘れ、「まちの間」が浸透してきた気がします。工事開始から完成まで大学の外に出て取り組み、いろんな人に携わる事が出来た事は、大変貴重な経験になりました。（泉）

改修工事やイベントなど沢山の人々と過ごす日々の中で、様々なことを学び、楽しいことから辛いことまで本当に充実した3ヶ月だったと感じています。共同生活にも慣れはじめ、楽しい日々を過ごしています。学生のみなさんも是非一度まちの間に遊びにきてもらいたいです。（江口）



まちなか学生会議の様子

今後は、1階のイベントスペースでまちづくりに関するイベントを行い、自分達も積極的に参加したいと考えています。ここに僕ら学生3人が住む事が商店街にとって活性化に繋がることが一番の目的ですが、まずは自分達が生活を楽しんで、まちなかの魅力を佐大生に情報発信していくことから始めたないとおもいます。

# 『ecocon2010』準グランプリ受賞!



秋山 翔太郎  
あきやま しょうたろう

工学系研究科機械システム工学専攻1年

私たち「チャリさがいせい」は、平成22年12月26、27日の二日間、東京で開催された「第8回全国大学生環境活動コンテスト(ecocon2010)」で準グランプリを受賞しました。2003年から毎年開催されているこの大会は、大学生が行っている環境活動について評価・表彰するコンテストで、今年は全国の大学から50団体が参加しました。どの団体もすばらしい活動をしており、その中で受賞することができたことを大変うれしく思います。

## 再生自転車

佐賀大学では、自転車生活を送る学生が多く、卒業後には大学の駐輪場に使われなくなった放置自転車が多数あること、またそれらは最終的に産業廃棄物として処分されていると耳にしました。そしてその中には修理をすればまだ乗れるものもたくさんありました。

大学等から引き取った自転車は、防犯手続きの解除など所定の手続きを行い、メンバー自ら修理します。そして、再び利用価値を得たものを私たちは「再生自転車」と呼んでいます。これらは、新入生等、必要とする方へ安価で提供しています。



## チャリさがいせい

ん?なんて読むのだろうと思いませんでしたか?  
「チャリさがいせい(再生)」と読みます。  
私たちは「チャリさ」とも呼んでいます。

主な活動 放置自転車を引き取り、修理・再生し販売

放置自転車の撲滅のため、不要になった自転車の回収活動

「パーク&サイクル」実現へ、イベントでのレンタサイクル活動



### パーク&サイクル(チャリさの造語)

パーク&サイクルとは、観光地へ自動車で直接乗り入れるのではなく、一旦、駐車場等で自転車に乗り換えて観光地内などを細やかに巡ることです。また、地域振興につながり、観光地内が車でごったがえすことも減ります。これを佐賀城下ひなまつりや佐賀インターナショナルバルーンフェスタで実施しています。



佐賀城下ひな祭り「徴古館」会場にて

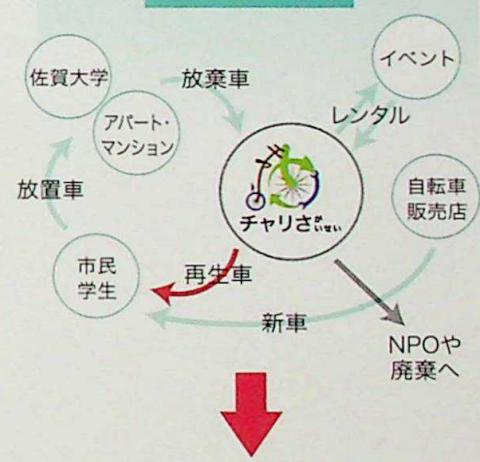


佐賀城下ひな祭り「佐賀城本丸跡」会場にて  
(手に持つのは受賞記念の盾)

### 放置自転車撲滅

私たちは主に放置自転車の引き取り活動しています。放置は元々あつてはならないのです。では、卒業時に要らなくなった自転車はどうすれば?答えは簡単です。私たち「チャリさ」へ預けて頂くことです。雨風にさらされてない自転車を整備し、再び新入生等の必要な方へ循環させることができとなるのです。「放置するくらいなら持ってこい!」です。ご協力よろしくお願ひいたします。

#### 現状の自転車循環



#### 将来の自転車循環





小山 修矢

文化教育学部学校教育課程4年  
ベトナム・ハノイ国際大学外国語大学  
(2009年4月～2010年1月)

温かい輪に包まれて  
「ベトナム人は驚くほど友好的な性格だ」、それが私のベトナム人に対する第一印象でした。バスで隣の席になつただけで、まるでそれまで友人だったかのように親しく話だし、バスを降りる頃には互いの電話番号を交換することもよくありました。私は大学で唯一の日本人留学生であつたため、自ら彼らに近づいていかなければ、孤独のままに1年を終える可能性もありました。しかし、こちらから向かっていくと、彼らは外国人である私さえも拒まず、温かく迎え入れてくれました。

その輪の中でベトナムの発展する力強さを体感し、日本とベトナムが将来、パートナーとして歩むそんな時代が来ることを確信しました。

私は、その歩みを先導するリーダーになるという夢を、ITの仕事を通して達成していきたいと思っています。

## 温かい輪に包まれて

「ベトナム人は驚くほど友好的な性格だ」、それが私のベトナム人に対する第一印象でした。バスで隣の席になつただけで、まるでそれまで友人だったかのように親しく話だし、バスを降りる頃には互いの電話番号を交換することもよくありました。私は大学で唯一の日本人留学生であつたため、自ら彼らに近づいていかなければ、孤独のままに1年を終える可能性もありました。しかし、こちらから向かっていくと、彼らは外国人である私さえも拒まず、温かく迎え入れてくれました。

その輪の中でベトナムの発展する力強さを体感し、日本とベトナムが将来、パートナーとして歩むそんな時代が来ることを確信しました。

私は、その歩みを先導するリーダーになるという夢を、ITの仕事を通して達成していきたいと思っています。

## かけがえのない一生の宝

台湾中興大学へ留学をして楽しかったことしか思い出にありません。毎日台湾人や各国からきた留学生の友人と一緒に中国語や英語を勉強し、旅行で台湾各地の美しい景色に感動し、祭りによって台湾文化を学び、日常生活を通して台湾人の優しさをとても感じました。私は中国語を勉強するために中興大学へ留学しましたが、言語の取得のみならずもつと大切なものを得て帰ってきたと思っていました。留学によって一年遅れることを理由に一時留学を諦めかけた頃もありましたが、留学を通して様々な経験をして多くの友人と知り合うことができて本当によかったです。



石明音

文化教育学部国際文化課程3年  
台湾・中興大学  
(2009年9月～2010年7月)

## 成長と再発見

留学したきっかけは、ヨーロッパの文化に興味があり、フランスと日本との文化交流がより盛んだったことです。

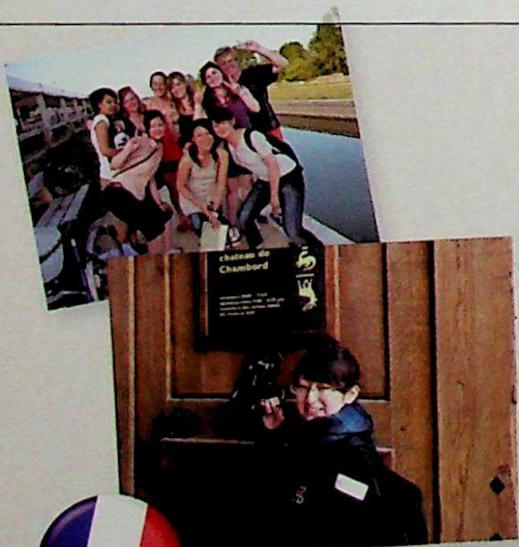
初めのうちは上手く会話できず、ホームシックにもかかりましたが、それも含めてやはり素晴らしい経験でした。日本では決して出会うことの無かつた人々と出会い、今まで触ることの無かつた様々な価値観に触ることで新たな自分を発見する機会となつたからです。

また学校主催のシャンボール城見学では城の大きさや石造りの建築に感銘を受け、美術館案内では文化・芸術に対する土壌の豊かさとその歴史に衝撃を受けました。それは同時に、繊細な美しさを持つ日本文化の良さを改めて実感し、日本を世界の目線から客観視する貴重な体験となりました。

この経験を活かし、将来は日本文化の発展・伝播に少しでも役立てるようになりたいと考えています。

谷口莉佳

文化教育学部国際文化課程4年  
フランス・オルレアン大学  
(2009年9月～2010年6月)



## 馬術部



部長  
なかがみ はるき  
**中上 晴紀**  
医学部医学科1年



みなさんこんにちは。私たちは佐賀大学馬術部です。馬術と聞いて、どのような印象を持たれるでしょうか？よく言われるようにお金がかかるスポーツなのか、格式ばって取りつきにくい世界なのか。あるいは馬術に関してほとんど見聞きしたことがない人も多いかもしれません。また北京オリンピックで最高齢の出場を果たした法華津選手をご記憶の方もいるかもしれません。

佐賀大学の馬術部は、そんな一見始めにくそうな馬術を気軽にできる場所です。部員の入部動機も、動物が好きであるなど様々で、少人数ながら楽しく活動しています。

馬は非常に賢い動物で、愛情をもってふれあったり世話をした人のことはよく覚えています。またホースセラピーのように、乗馬を通じての癒しや、乗馬マシン等で紹介されるようなフィトネス効果は、馬術でしか体験できない特徴だと思います。

大学生生活に潤いを与えてくれる、馬から元気をもらえる、それが馬術部です。



## ボイ撮り(本庄キャンパス)



部長  
まつふじ りか  
**松藤 りか**  
農学部応用生物科学科2年



映像サークルボイ撮りといいます。顧問の中村隆敏先生を中心に集まった七人で活動を始め、今年設立二年目に突入しました！

わたしたちは映画、CM・広告、WEBサイト、CG、アニメーション、音楽などデジタルコンテンツの製作とそのマネージメントをのんびり学んでいます。具体的には、イベントDVD、観光地のPRビデオの作成、宇宙科学館でのAR（飛び出すCG）の展示、シアターCIEMAと連携したプロジェクトなどの活動に尽力していますね。また、日韓映画祭では、二年連続日韓交流キャンプへ参加し、去年は部員からキャンプ部門最優秀賞を出しました！

…と、ちょっと見栄を張って凄なことを書いてみましたが、とにかく自分たちがやりたいことに片っ端から挑戦しています。今年こそは長編映画を製作し、公開したいですね。これからわたしたちの活躍に、ぜひご注目ください！



# 新酒

の販売が始まりました！

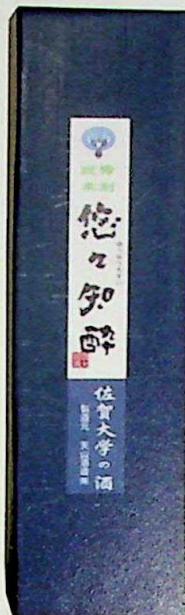
佐賀大学オリジナル特別純米酒  
ゆう ゆう ち すい

## 「悠久知醉」

佐賀大学が地場の酒造メーカーと連携し作り始めた、大学オリジナルのブランド清酒「悠久知醉」の新酒が出来上がりました。

今年は、農学部の学生達が洗米、麹造り、仕込み、絞りに参加し、小城市の「天山酒造」で製造されました。

すっきりと爽やかな仕上がりとなっております。是非一度お試しください。数に限りがありますので、お早めに！



### お求めは…

佐賀大学生活協同組合、佐賀玉屋、イオン佐賀大和、ゆめタウン、あんくるふじや(佐賀本店、北部店)、森本酒店、しめなわ酒店 他

**電話、FAXまたはメールでの注文は下記へお願ひいたします。**

〒840-0027 佐賀市本庄町1番地

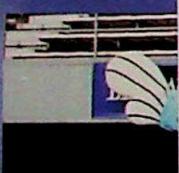
佐賀大学生活協同組合

E-mail Sadaicoop.Honbu@me3.seikyou.ne.jp

TEL 0952-25-4450/FAX 0952-25-4287

## 佐賀 地域

J1昇格を目指す  
と、鳥栖市のペ  
期間は、3月の  
あなたも是非  
ください。



左から佛淵孝夫先生

## 佐賀大学×

毎号、受験生へ向けて

### 読者アンケート

佐賀大学広報誌「かちがらす」第21号について、ご意見をお聞かせください。

#### ■「かちがらす」第21号で興味深かった記事は何ですか？（複数回答可）

1. 特集 「Arts & Crafts～文化教育学部美術・工芸教室の実力～」
2. 活躍する佐大OB 「音楽との出会い、人との出会い」
3. 教育紹介 「佐賀大学版「環境教育」の実践」
4. 研究紹介 「メタボリックシンドロームの予防と改善に新展開！」
5. イキイキ佐大生 「内閣府特命担当大臣賞を受賞」
6. 地域貢献 「実験住宅「まちの間」」
7. トピックス 「『ecocon 2010』準グランプリ受賞！」
8. 留学報告
9. サークル紹介 ポイ撮り（本庄キャンパス）、馬術部
10. お知らせ 「悠久知醉」新酒発売！  
「サガン鳥栖」ホームスタジアムにピッチ看板設置

#### ■「かちがらす」全体の印象はどうですか？

1. 良い
2. まあまあ
3. 良くない

#### ■「かちがらす」についてのご意見や、今後取り上げてほしいテーマ がありましたら、ご記入ください。

# 誌上ギャラリー

作品名

## 「種づくり」

(第55回美術・工芸課程卒業制作展 出品作)

やまぐち

めぐみ

山口

恵美

(文化教育学部美術・工芸課程4年／窯芸専攻)



### 【作者プロフィール】

1988年 佐賀県生まれ

2008年 国際陶磁器フェスティバル美濃'08 入選  
(2011年4月より本学大学院教育学研究科へ進学予定)

### 【作者コメント】

この作品のテーマはタイトルの通り、種をつくるということです。この『種』には植物の種だけではなく、様々なものの源という意味を込めました。

その種が何の種であって、それをつくる過程がどういった意味を持っているかを想像して楽しんでいただければ幸いです。



本学の情報を携帯電話で見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。

携帯用 URL:<http://daigakujc.jp/saga-u/>